



樹里安だより

ジュリアン

2009年12月
Vol. 26



— 安行の名所 (その13) —

万葉植物苑 《川口市大字安行原》



古くから日本の山里に生い茂り、奈良時代には盛んに和歌などにも詠まれていた植物を一堂に集めた「万葉植物苑」が赤堀用水沿い斜面ふるさとの森の一郭にお目見えした。

地元の「安行みどりのまちづくり協議会」が、市から管理委託された土地1千平方メートルを有効活用しようと、万葉集に詠われている約160種の植物のうちウメ、アシビ、スミレなど30数種類を植栽、名札や代表的な和歌、作者名の説明板も整えた。今後もさらに増やしていく計画で、川口市の新しいスポットとして人気を集めそうだ。

見沼自然の家の

ムクノキ

(川口市行衛649)

昔は、見渡す限り広い水田地帯だった見沼たんぼ。今は、トウモロコシやトマトなどの畑やアシの原、遊水池に姿を変えているが、その一郭の見沼代用水東縁に、こんもりとした林に囲まれた見沼自然の家がある。この屋敷林の中に、見沼たんぼを見下ろすように一際高くそびえているのが、川口市指定の保存樹木ムクノキだ。見沼自然の家は、江戸末期の建物で、入母屋造りの立派な農家だ。この建物の管理を埼玉県生態系保護協会が川口市から委嘱され、野鳥のための池や昆虫の生息場、蜂の巣となる「見沼蜂マンション」など、自然観察の場を設けたり、また動植物観察会のほか、よもぎ餅づくり、しめ縄づくりなどを実施し、年間を通して学童の社会教育の場として活用している。

ムクノキは、おそらく農家がたてられたとき、防風林としてクヌギ、ミズナラ、ツバキなどと一緒に植えられたものだろう。春、若葉が伸びる頃に、淡緑色の小花をつけ、やがて紫黒色の実をつける。果実は甘くて食べられる。お菓子もあまり手に入らない時代、木も低く実も採りやすかったのだから、子供たちのおやつとして重宝されていたのかもしれない。しかし、今は樹高17.5m、胴回り3mの太木となり、人間に代わってムクドリなどのよいえさとなっている。

ここから約300mの見沼代用水下流に「見沼ふれあい農園」、さらに100m下流に「川口自然公園」がある。農園では市民たちが野菜作りに汗を流し、公園では池に釣り糸を垂らす太公望や緑陰に憩う親子連れなど、それぞれの生活をエンジョイしている。

見沼たんぼには、「見沼の主」という伝説がある。要約すると《見沼の主は大蛇だという。ある時、一人の車夫が夜道に空の人力車を引いての帰り道、突然姿を見せた美しい女に「成因参りしたいから」と頼まれ、車に乗せて道を急いだ。途中、印旛沼のあたりで急に軽くなったので振り返ってみると女の姿はなかった。かわりに座席は濡れ、青臭い匂いが漂っていた。車夫の恐怖話に村民たちは「さては見沼の主の大蛇が開発によって住みにくくなり、姿を変えて印旛沼へ移ったのだろう」とうわさした。このことがあってから、見沼の大蛇の姿は見られなくなった》という。

昼間でも人影がまばらで、ひっそり静まりかえった時代に生まれた伝説は、近代化の波にもまれる現代では通用しないだろう。時代の移り変わりをじっと見つめているのは、このムクノキだけだろう。



ムクノキ

Aphananthe aspera Planch ニレ科ムクノキ属

- 別名 ムクエノキ
- 分布 東アジア
- 高さ 20m 幹周り3m以上になる落葉広葉高木
- 用途 公園樹 神社境内植栽用 並木 景観樹 屋敷林
- 陽樹～中庸樹
- 生長はやや速い 深根性 湿気に強い 風害に強い 移植はやや困難
潮風に耐える 大気汚染に対して弱い
- 樹皮は淡灰褐色で、平滑だが、樹齢に伴って割れ目が入る
- 花には雄花と雌花があり、4～5月頃、淡緑色の花が咲く
葉は単葉で互生 葉身は卵形または狭卵形
果期は、10月～12月に果実は緑色で球形は直径7～12mm程度 熟すと黒紫色に熟す
ムクドリが食す



見沼自然の家の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
ムクノキ	ニレ科	H13.4.1	210	行衛649	3.0m	17.5m



万葉植物と植物

日本最古の歌集である「万葉集」は、大化年間の645年前後から天平宝字年間の759年前後の約110数年にわたる人々の歌を大伴家持がまとめたとされている。20巻からなる万葉植物の総歌数は4536首にのぼっており、古代の日本民族の文化、思想、美意識などを知ることができる貴重な歌集である。

とくに、歌数の3分の1が植物を詠んだもので、植物の種類は、157種類にも及んでいる。それらは単に花や木の美しい姿やながめを描写しただけでなく、植物に心を託して、喜びや悲しみ、怒りなどの感情を表現した歌の方がはるかに多い。これは、身近に存在する自然以外には、思いを訴える対象を持たなかった当時の人々にとって、日々の暮らしにつけ、遊びにつけ、また夫や親や子への愛情恋愛などの人間のしがらみにつけ、花や草や木が素直に語りかけられることのできる最大の友だったからだろう。

万葉集には、上は天皇から、下は、名もなき農夫や身分の低い女性まで、あらゆる階級の人々の歌が集められており、また地域的にも都と田舎、それに大和だけでなく、東国の人々の東歌など地域も広域的で、西の人も東の人も花に寄せる思いには変わりなかったことがうかがえる。

万葉びとの愛した花は、アシビ、ウノハナ、ハギなどで地味で目立たないものが多いが、初期万葉では特に白い花が好まれ、女性の恋歌にはアシビの花がしばしば登場する。激しい恋心を清楚な白い花で訴える女心がいじらしい限りだ。時が移り世が変わると、時代が反映して、人々の好みも変わり、天平期には紫色系統が愛されるようになったようだ。山上憶良の有名な秋の七草《芽子はぎの花尾花なでしこ葛花おみなえし瞿麦あさがおの花女郎花また藤袴朝貌の花》オミナエシの黄色を除けば、すべて紫系統の花である。紫は恋の色としても数々と詠まれている。

万葉の植物は、愛する人への慕情や恋のもつれの中に咲き、あるいは親や子への情愛や望郷の涙の中に咲いて、万葉びとの心情生活に深いかかわりを持つ一方で、日常生活記録の中にも現れてくる。若い女性たちと一緒に菟芽子うはぎ（ヨメナ）を摘んで煮て食べたという春の野遊び歌、美しく着飾って薬草を採取する宮廷行事の歌もある。また薬や染料として使われていた記録も歌も残されている

このように万葉の花や草や木は歌だけの対象物でなく、衣食住の生活万般に渡って、人々の密接なかかわりを持つほど人々の心の大きな支えになっていたといえよう。

万葉集の名の由来

万（よろず）の言の葉を集めたといわれ、また万世（よろずよ）に伝えることを期したともいわれる。

歌の類別（部立て）

- ぞうか
[雑歌] 宮廷祭式など晴れの機会に詠われた公的作品が多い
そうもん
[相聞] 男女の恋歌を主とする贈答歌
ばんか
[挽歌] 人の死を悲しみ悼む歌



歌の形態と歌数

[短歌]	4207首	[長歌]	265首	[旋頭歌]	62首
[仏足石歌]	1首	[連歌]	1首		

万葉集の花と上位20種

植物名

ハギ	138	・	ウメ	118	・	マツ	81	・	タチバナ	66	・	アシ	47
スゲ	44	・	ススキ	43	・	サクラ	42	・	ヤナギ	39	・	チガヤ	26
アサ	26	・	ナデシコ	26	・	イネ	26	・	クレナイ	23	・	フジ	21
ウノハナ	22	・	コモ	22	・	タケ	19	・	クズ	17	・	ヤマブキ	17

松

梅

萩



豊作・大漁祈願

マンサク

マンサク科 マンサク属
(落葉広葉樹・小高木・陽樹)

早春、枝いっぱいに黄色い花が咲く年は、豊年満作といわれる。マンサクの名はここからきているという。いわば花占いだ、豊年祈願に植えるようになったという。

学名のHamamelisは、ギリシャ語 Ham (共に) melis (果実) の合成語。花と実と共にあるの意で、文字通り花も実もある豊年を記念して植える。

1. 特徴

開花期 2～3月、結実期 10～11月。花の大きいシナマンサクもある。

2. 植えるときの注意

時期 11～12月・2～3月

場所 日当たりのよい場所を好み、土質は特に選ばない。乾燥を嫌う。

3. 管理のポイント

樹形を整えるためには、落葉期に伸び過ぎた枝などを切り詰める

《他の木》



ザクロ

落葉広葉樹
高木・陽樹



マンリョウ

常緑広葉樹・低木
中庸樹～陰樹



クス

常緑広葉樹
高木・陽樹



コブシ

落葉広葉樹
高木・陽樹



川口緑化センターの主なイベント結果報告

1 秋の園芸フェスタ2009

平成21年9月26日(土)～27日(日)

川口駅東口駅前キュポ・ラ広場において「秋の園芸フェスタ2009」を開催しました。市内緑化団体の「植木市」のほか「植木のオークション」「園芸講習会」「フラダンスショー」「歌声カフェ」などが実施され、たいへん好評でした。



2 第69回 秋の安行植木まつり

平成21年10月10日(土)～12日(祝)

植木の里・安行の伝統行事である植木まつり。「川口市営植物取引センター」「埼玉県花と緑の振興センター」と合同開催しました。地元安行の緑化事業者が現代のライフスタイルに合わせた「ミニ庭園」を作製し、人気を博しました。



3 第18回 緑と大地の豊年まつり

平成21年10月31日(土)～11月1日(日)

川口市農家組合連絡協議会と共催で開催しました。緑化センター会場では、北海道滝上町物産販売、山形産りんご、ラ・フランス販売、フルーツ卵販売、銚子・河津物産販売を実施し、植物取引センター会場では、新鮮野菜コーナー、各種模擬店コーナーが設置され、都市地域農業の振興が図られました。



4 第48回 農林水産祭 実りのフェスティバル

平成21年11月6日(金)～7日(土)

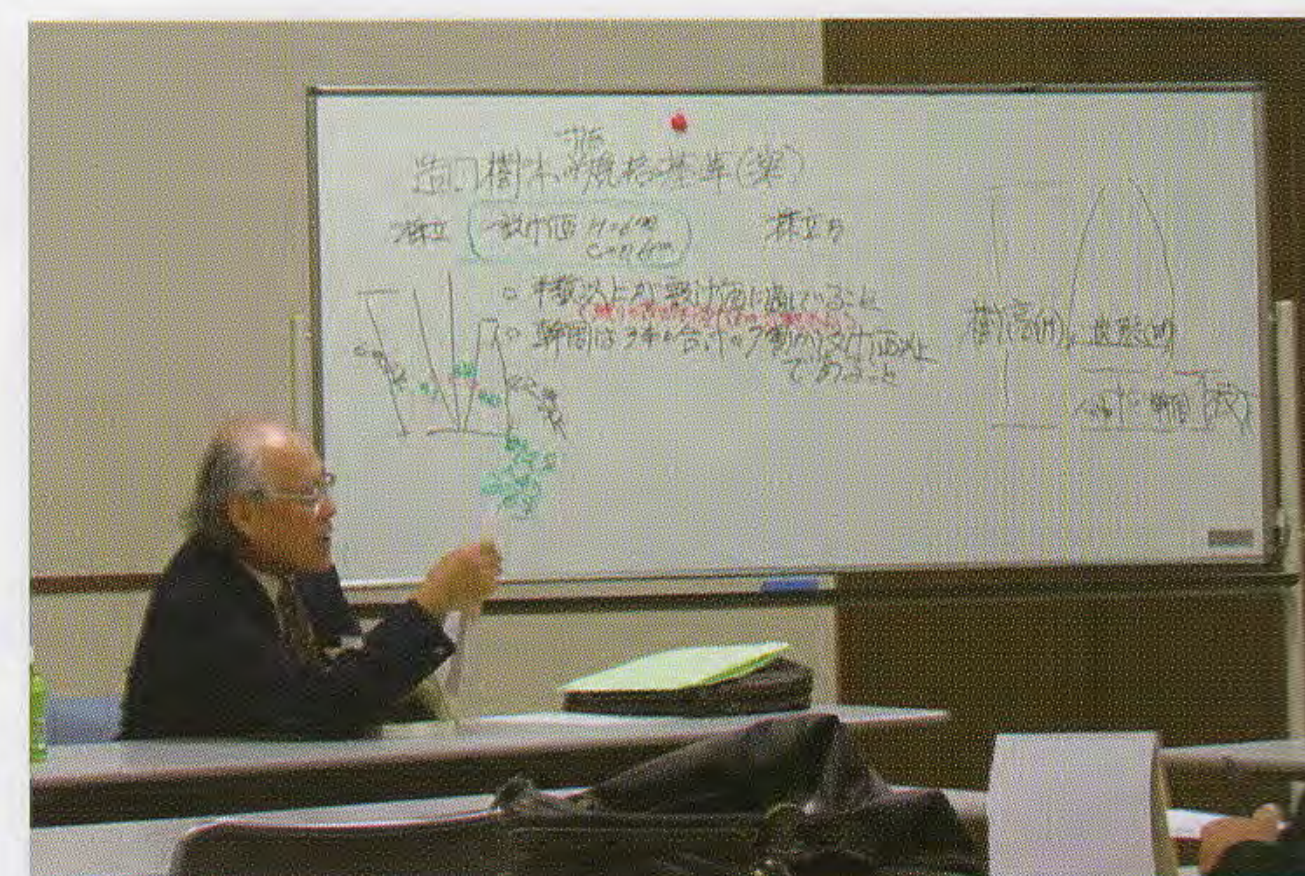
「東京ビッグサイト」で開催された「第48回農林水産祭」に出展しました。市内産の鉢花の展示即売や、市の花「テッポウユリ」の球根の配布を実施し、花・植木の安行をPRしました。



5 「2級造園施工管理技術検定試験」 対策講習会

平成21年11月7日(土)～8日(日)

市内の緑化事業者を対象に、「2級造園施工管理技術検定試験」対策講習会を実施しました。造園施工に関する知識、技術の向上が図られました。





● 花の格言・名言集 ●

四季折々に咲く草花や花木ほど、自然の美しさとともに潤いや安らぎを与えてくれるものはない。人生の喜び悲しみ、生活の知恵など、花によせた格言・名言の心を知り、生活の糧にしてみたら。

[青は藍より出でて藍より青し]

藍を原料にして染めた色が、もとの藍より濃い色になることから、弟子が先生より優れている、または、子が父より勝ることをいう。

[花一時 人一盛り]

花の盛りは数日にすぎない。人間も盛んな時はほんの一時である。

[秋、タンポポの咲く年は雪が浅い]

春の花のタンポポが、秋に咲くような暖かい年は、だいたい翌年の1・2月の気温も高く、したがって雪も少ない。

[瓜田に履をいれず、李下に冠を正さず]

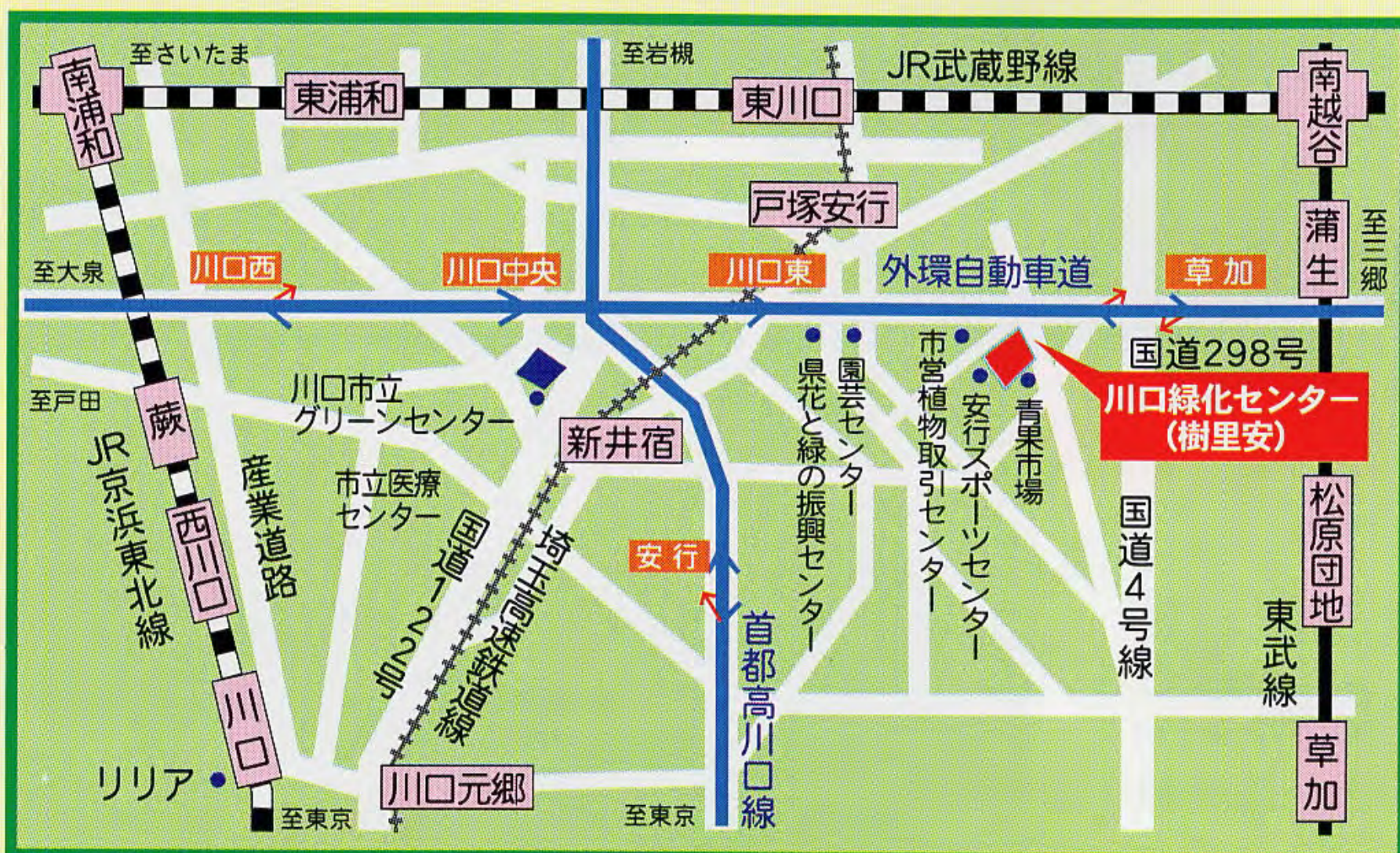
ウリのなっている畑に足を踏み入れれば、瓜盗人かと思われ、スモモのなっている枝の下で、冠をなおせば、スモモを盗むのかと疑われる。およそ疑を招くようなことはしないほうがよい。

[仇花に実はならぬ]

見かけはよくても、着実でない計画は成功しないという意味。キュウリやカボチャの花には雌雄があり、実のならない雄花を仇花と呼ぶ。

[花は山 人は里]

桜の花は深山に人知れず咲いているのが、ゆかしいが、人間はやはり人里に出て見なければ、これという人を探し当てることができない。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成21年12月1日
発行：財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL 048-296-4021
ホームページ：<http://www.jurian.or.jp>

KAWAGUCHI

きらり川口
緑いっぱい